

報告

マイクロウェーブ展2010後夜祭開催

2010年12月10日(金)イタリアン リストランテ アッティモにて

井下 佳弘

マイクロウェーブ展2010後夜祭がマイクロウェーブ展最終日、12月10日海の見えるイタリアン リストランテ アッティモにての12月和やかに開催されました。

参加者は飯田様、景山様、海上様、北爪様、伊東様、紅林様、岡田様、春日様、本間様、高松様、脇野様、武田様、石田様、三浦様、谷口様、風神様、奥野様、泉様、小谷様、渡辺様、赤田様、橋本様、高橋様、そして筆者と24名と多くの会員が久しぶりにマイクロウェーブ展の聖地パシフィコ横浜に集い、おいしいワインと厳選されたイタリアン料理を堪能しマイクロウェーブ談議に花を咲かせました。



スタートが出来ません、皆様席へ！！



まだ席に着こうとしない面々！！



ワインも飲まず難しい論議
少しは飲んで食べてください、幹事！！



こちらも難しいマイクロウェーブのレクチャ
何時までたっても良いね
マイクロウェーブは！！



マイクロウェーブの戦士面々

マイクロウェーブ展は1990年 APMC90の併設展示として池袋サンシャインシティで初めて開催され、その後1995年より2002年の京都国際会議場での開催を除いて毎年横浜みなとみらいパシフィック横浜で開催されもう15年になります。

1995年のみなとみらい地区は高層ビル建設のまっただ中でありましたが、その後2003年に地下鉄みなとみらいせん線が開通し、その後東京メトロ副都心線の乗り入れも行われ大きく発展と遂げ、今では開発当時の面影はありません。

日本において1990～2010年を失われた20年というようなネガティブな表現が良く使われるが、本当はどうであったのか少し振り返ってみたい。

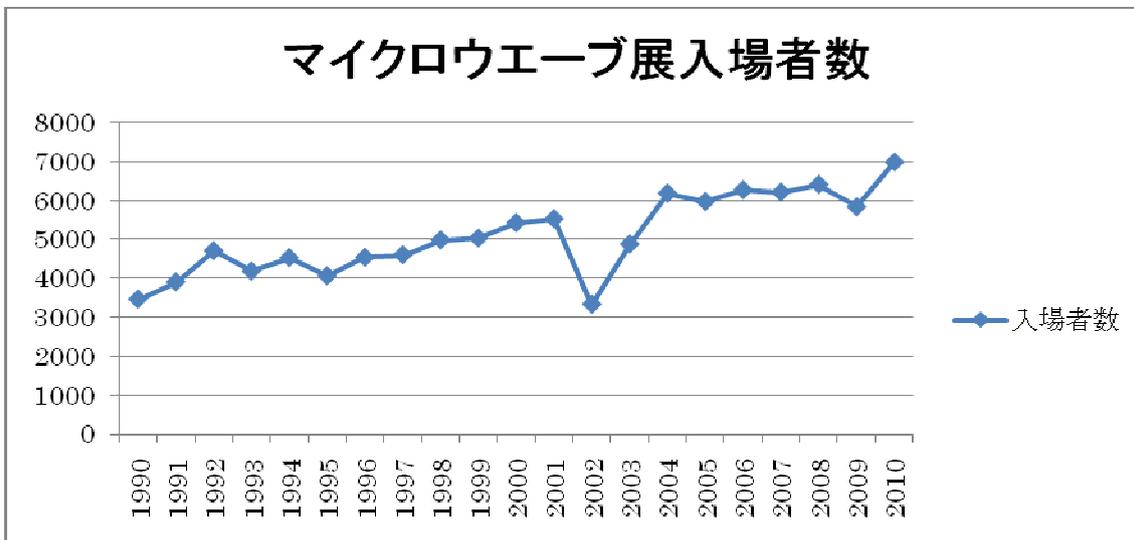
世界経済においては、2001年に始まった高速ブロードバンドとインターネット進化そしてITバブル崩壊、また2008年のリーマンショックと先進国経済は大きな打撃をこうむった。

一方90年代初めから急激に進化を遂げたデジタル情報化は、携帯電話の世界に於いても1993年のPDCスタート、その後の2001年からの3Gサービス開始、そして2010年12月のドコモによるLTEサービスの開始と高速化と利便性が飛躍的に高まってきている。

また放送分野でのデジタル化は2003年の地デジと大画面フラットテレビが一般家庭に広く普及して2013年の完全デジタル化を迎えようとしている。

昨今のSEATEC、Wireless展、InterB等の展示会の衰退を見るにつけマイクロウェーブ展の堅実な発展に目を見張るものがある。

光デバイスによるブロードバンド技術、無線プロトコルによる携帯電話、デジタル変調技術による地デジ等あらゆる分野で基盤技術を支えているのは決して派手ではないマイクロウェーブ技術であると強く確信する。



マイクロウェーブ展は 2002 年の IT バブル崩壊直後の京都における APMC2002 を除いて極めて堅調な入場者数の伸びで有り、2010 年には 6976 人と過去最高の入場者数となった。この間、出展社数も 120 社を超え小間数も近年 200 小間以上が続いている。

マイクロウェーブ技術について言うならば過去 20 年において常に先進技術分野で貢献し続けてきていると言っても過言ではない。

そういう目で見ると今回の 2010 マイクロウェーブ展後祭における会員の尽きることが無いマイクロウェーブ論議に納得がいくものである。



輝く地上の星達